

つなプロ

次世代と地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト

向日 A to Z

戦国時代へタイムスリップ！
～西岡衆をさぐる～



はじめに

つなプロ 向日モデル「戦国時代へタイムスリップ!～西岡衆をさぐる～」では、向日市に住んでいる小中学生17名の参加を得て、およそ半年間、発表会を含めて計10回の学習と体験活動を行いました。

戦国時代に京都乙訓・西岡地域で活躍した「西岡衆」と呼ばれた武士たちをテーマに、「にしのおかしやう どういう人たちなのか」「どんな暮らしをしていたのか」「どのように戦い、どのように地域を治めていたのか」などについて、子どもたちが主体的かつ熱心に探究しました。特に、第7回「寄合」の回では、戦国武将になりきって、本能寺の変→中国大返し→山崎の戦いと刻一刻と変化する情勢を踏まえて「自分たちはどう行動すべきか」について、経緯、地形、財政、軍勢力、村の存亡などいろいろな視点から考え、議論しました。

本冊子は、一連の学習の成果の中から、特に重要と思われる事項を子どもたち自身が選び、「A」から「Z」の頭文字の言葉に落とし込んで取りまとめたものです。学習の様子や子どもたちの思いを想像し感じ取りながら、ご一読いただけましたら幸いです。

つなプロとは？

未来を作っていく子どもたちが、博物館（ミュージアム）や学校（スクール）に関わる大人たちや地域で活躍する方々と地域文化を体験し、ふるさとにある大切に素晴らしいものを再発見し、次世代へ「つないで」いくプロジェクト。

CONTENTS

- | | | |
|-------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|
| A Akechi Mitsuhide
明智 光秀 | K Kara iri
唐入り | U Umazoroe
馬揃え |
| B Bang
鉄砲 | L Letter
文書(もんじょ)・書状 | V Village
西岡の村々 |
| C Cha no yu
茶の湯 | M Miyoshi Nagayoshi
三好 長慶 | W Water
用水 |
| D Dorui
土塁 | N Nishinooka
西岡 | X Thirty-six
三十六家 |
| E Egoma abura
えごま油 | O Oda Nobunaga
織田 信長 | Y Yamazaki no tatakai
山崎の戦い |
| F Furusato
ふるさと | P Pay
礼銭を出す | Z Zairaiha
在来馬 |
| G Geiha
鯨波(けいは) | Q Quick
中国大返し | |
| H Hosokawa Fujitaka
細川 藤孝 | R Renga
連歌 | |
| I Ikusa
戦 | S Shoryuji Castle
勝龍寺城 | |
| J Jinja
神社 | T Toyotomi Hideyoshi
豊臣 秀吉 | |



戦国西岡衆カード
(制作:京都乙訓ふるさと歴史研究会)



明智光秀像 岸和田市本徳寺所蔵



丹波亀山鉄砲隊



茶の湯体験



Akechi Mitsuhide 明智 光秀

織田信長の家臣となって活躍し、近江や丹波を治めていた武将。天正10年(1582年)6月2日未明に主君信長を討った本能寺の変は、日本史の重大事件の一つとして有名です。山陰道(いんどう)をひんぱんに行き来していた光秀は、丹波亀山城を出発して本能寺へ進軍した際も、真夜中(しよかつら)に下桂など西岡を通過し、桂川を渡ったと考えられます。



Bang 鉄砲

天文12年(1543年)、南蛮船(なんばんせん)によって日本に伝えられた火繩銃(ひなわじゆう)は、強力な最新兵器としてまったく間に全国に広がりました。有効射程距離は50m~100mと言われ、弓矢や槍が中心であった戦の形を大きく変えました。山崎の戦いでも使用され、公家の日記には「鉄砲の音がしばらく鳴りやまなかった」と記されています。



Cha no yu 茶の湯

「茶の湯とは、ただ湯をわかして茶を(た)点てて、のむばかりなることと知るべし」という言葉(このことば)を遺した千利休。利休が確立した茶の湯は、戦国武将の間に広まりました。武士のたしなみであるとともに、戦の合間のしばしの安らぎや心の交流の場でした。大山崎町の禅宗(ぜんじゆう)妙喜庵(みょうきあん)には、利休が建てたとされる茶室「待庵(たいあん)(国宝)」があります。



石見城(堀と二重の土塁)



Dorui

土塁

戦国時代の西岡には、土塁と堀に囲まれた城が構えられていました。土塁とは敵からの攻撃を防ぐためにつくった土手のことで、兵が上に乗って戦ったり外からの矢玉を防いだりする機能があります。物集女城の土塁は、堀側の土を高く積み上げ叩きしめて築かれており、堀底からの高さは約6mにもおよびます。



油売り(職人尽歌合)
国立国会図書館デジタルコレクション



Egoma abura

えごま油

鎌倉時代から戦国時代にかけて、大山崎はえごま油(灯明油)の製造・販売の独占権(美濃・尾張~九州)を持ち、全国有数の町として発展していました。本能寺の変直後に明智光秀と織田信孝にお金を払い、それぞれから禁制(危害を加えないという約束)を得たことは、町の裕福さと情報網の充実ぶりを物語っています。



竹の径「深呼吸」
向日市観光協会HP ギャラリー



Furusato

ふるさと

向日市は、全国で3番目に面積が小さい市です。京都と大阪の間に位置し、古代から交通の要衝でした。延暦3年(784年)に、桓武天皇が平城京から都を遷した「長岡京」の中心地として知られます。江戸時代後期以降生産が盛んになった「たけのこ」が特産品の一つで、竹林の中に美しい竹垣が続く「竹の径」が有名です。



ふるさと歴史紙芝居
「鯨波～関の声をあげよ」⑭信長の危機 志賀の陣



Geiha
鯨波

「えいえい」「おー」という勝どきの声を次々と連続させることを鯨波と言います。公家の日記には「西岡一揆方、北白川まで二、三千打廻り、鯨波をあげた」などと繰り返して記述されています。元亀元年(1570年)、足利義昭・織田信長の要請に応じて、比叡山に陣取る浅井・朝倉軍を鯨波で威嚇し、京都市中への突撃を防いだそうです。



ふるさと歴史紙芝居
「細川幽斎」⑯古今伝授



Hosokawa Fujitaka
細川 藤孝

古今伝授の継承者であり、和歌などあらゆる文芸に秀でた戦国随一の武家文化人として知られる細川藤孝は、足利義輝、足利義昭、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に仕え、戦国を生き抜いた武将です。元亀4年(1573年)に、信長から西岡の支配を任された際には、長岡と名乗りました。



ふるさと歴史紙芝居
「鯨波～関の声をあげよ」⑰細川藤孝の転戦



Ikusa
戦

西岡は京の都の近郊に位置したことから、応仁・文明の乱、織田信長上洛の時の戦い、山崎の戦いなどたびたび大きな戦に巻き込まれました。また、西岡衆は細川藤孝に従って、丹波での戦いをはじめ、大和信貴山城の戦い、大坂本願寺との戦いなど各地に出向いて戦うこともあったと考えられています。



寄合体験(向日神社)



ふるさと歴史紙芝居
「太閤唐入り」の富永屋 秀吉と秀次の対面



西岡国家神足友春等連署書状
東寺百合文書(京都府立京都学・歴史館所蔵)



Jinja 神社

向日神社は、養老2年(718年)創建の古社です。応永29年(1422年)に建てられた本殿は、室町時代の三間社流造という建築様式で、国の重要文化財に指定されています。室町時代から戦国時代にかけては、一揆など西岡の人々が結集する場であり、西岡の寄合の場でもありました。



Kara iri 唐入り

天下統一を果たした豊臣秀吉が20万人近い大軍勢で朝鮮を攻めた朝鮮出兵のことを、当時は唐入りと言いました。京の聚楽第を出発した太閤が、最初に休憩したのが向日町でした。相国寺僧侶の日記などには、金の武具をまとった軍勢が行進したこと、関白秀次が向日町の茶屋で太閤を出迎えたことなどが書かれています。



Letter もんじょ 文書・書状

戦国時代の文書の形には、大きく分けてたて紙と折紙の2種類がありました。西岡衆がよくやりとりしたのは、比較的簡単な形式である折紙の書状で、その名の通り、横に二つ折りし、折り目を下にして書きます。西岡に関係する文書には、税のことや約束、寄合のこと、また戦いの指示について書かれています。



三好長慶像(横本 部分)
京都大学総合博物館蔵



ふるさと歴史紙芝居
「鯨波〜関の声をあげよ〜」②西岡



織田信長像
長興寺(豊田市)所蔵 写真協力:豊田市



Miyoshi Nagayoshi 三好 長慶

室町時代末期、幕府の中で実力を発揮し始めた三好長慶は、山城・摂津・河内など畿内やその周辺の9か国を支配下に置きました。政権の中樞を押さえた長慶のことを、「織田信長に先んじた『最初の天下人』』と言う人もいます。西岡衆は、三好長慶の政治手腕に信頼を寄せ、長慶の下で西岡を治めるようになりました。



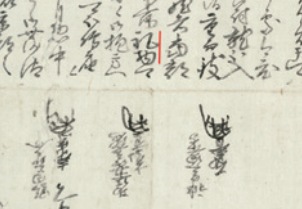
Nishinooka 西岡

桂川の右岸、現在の向日市、長岡京市、京都市西京区の一部などを含む地域は、京都から見て西の方角にある長い丘のふもとに広がる地域であったことから、室町時代には西岡と呼ばれていました。地方から京の都につながる山陰道、西国街道が通り、桂川・淀川に接していたことから、古代から水陸交通の要衝でした。

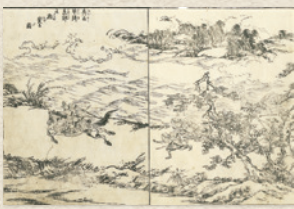


Oda Nobunaga 織田 信長

永禄11年(1568年)、足利義昭とともに上洛してきた織田信長は圧倒的な武力で一気に攻め上ってきました。このとき西岡衆は、勝龍寺城を拠点に抵抗しましたが、村々が焼き払われ敗れました。天正8年(1580年)、細川藤孝が丹後に国替えになると西岡は信長の直轄領となりました。



野田泰忠等連署書状(部分)
東寺百文書(京都府立京都大学・歴史館所蔵)



絵本太閤記三編十二巻
「秀吉単騎京都に馳登る図」



ふるさと歴史紙芝居
「細川幽齋」@信長公御追善百韻連歌会



Pay

礼銭を出す

西岡の人々は、室町幕府の権力者からたびたび税や労役を課せられることがありましたが、交渉によってうまく避けたり、かわりに借金の帳消しを求めて徳政一揆を起こしたりしました。写真の文書は、新たに求められた税を免れるために「礼物として金銭を支払うこと」を寄合で申し合わせていたことを示すものです。



Quick

中国大返し

天正10年(1582年)6月、毛利氏と対峙して備中高松城攻めの最中であつた羽柴秀吉。本能寺の変の報を聞いた6月3日からわずか10日後には、京都盆地の入口である山崎に到達し、明智光秀軍を打ち破ります。わずかな期間に200kmあまりの距離を移動した超高速の進軍は、「中国大返し」と呼ばれています。



Renga

連歌

五七五の長い句と七七の短い句を交互に連ねて、みんなで一つの長い詩を作るのが連歌です。連歌で大切にされるのは「変化」で、前の句までで描かれた世界から連想しつつ、発想を転換して次の句を詠みます。いわゆる「連想ゲーム」の感覚です。武将たちが互いに教養を披露するとともに、楽しく交流する場でした。



イラスト香川元太郎 監修中井均
歴史群像110号より(部分)



Shoryuji Castle 勝龍寺城

応仁・文明の乱のころから西岡きよたての拠点的な城として常に使われてきた勝龍寺城。元龜2年(1571年)細川藤孝により大きく改修され、瓦屋根建物・礎石、石垣いしがき、屈曲した入口である枳形虎口あじがまこぐちなど、当時最先端の築城技術を誇りました。山崎の戦いで形勢不利となった明智光秀が、最後に入った城としても知られます。



羽柴秀吉像
干葉山光福寺所蔵



Toyotomi Hideyoshi 豊臣 秀吉

山崎の戦いに勝利した羽柴秀吉(後の豊臣秀吉)は、信長亡き後の跡継ぎや領地の配分を定めた清洲会議すずかいぎにおいて西岡を領地としました。さらに、天王山の頂上に天守を備えた山崎城を造り、約1年間拠点としました。檢地・刀狩令などの政策は、西岡衆のその後も大きな影響を与えました。



ふるさと歴史紙芝居
「鯨波〜関の声をあげよ〜」©馬揃え



Umayoroe 馬揃え

天正9年(1581年)2月、織田信長が正親町天皇の御前で行った軍事パレード「馬揃え」は、畿内近国の大名や武将たちを集め、すばらしい馬を集めた盛大なものでした。先頭を行く信長の重臣 丹羽長秀に続く摂津衆、若狭衆などと、西岡衆も列に加わりました。



洛外図屏風 笹井家本(部分)
(高槻市教育委員会所蔵)



山城国桂川用水差図案(部分)
東寺百合文書(京都府立京都学・歴史館所蔵)



ふるさと歴史紙芝居
「鯨波～関の声をあげよ～」⑦西岡の自治



Village

西岡の村々

西岡は戦国時代に、村々が協力して村のまとまり「惣国」を作り、室町幕府の権力者などの直接的な支配を巧みに避けながら自治的に一帯を治めた全国的にまれな地域でした。細川藤孝の統治の下で、「先祖代々の土地である」として独立を維持しようとした国衆の一人 物集女宗入は細川家家臣に謀殺されました。



Water
用水

西岡は、古くから桂川などの水を利用して農作物を作る豊かな土地でした。村から遠い川の上流から用水を引いてくるため、村々は協力して堤や溝を修理したり、水争いにならないように話し合いでいろいろな約束事を決めていました。水をめぐつなかりが、「惣国」ができる一つのもとになったと考えられます。



Thirty-six
三十六家

西岡の村々は、国衆と呼ばれた武士たちが治めていました。江戸時代の書物には、西岡に「室町将軍家に仕える武家が三十六家あった」と記されています。西岡衆は、室町幕府将軍、三好長慶、三好三人衆(石成友通)、織田信長、細川藤孝、明智光秀、羽柴秀吉(豊臣秀吉)などの武将たちと深く関わりながら、地域を治めました。



山崎合戦について話し合う子どもたち
(寄合体験)



竹の径を行く在来馬(和種馬)



Yamazaki no tatakai

山崎の戦い

本能寺の変のわずか11日後、羽柴秀吉軍と明智光秀軍が天王山のふもとで激突しました。数で劣る明智軍は、羽柴軍の突撃にまたたく間に打ち破られました。西岡の広い範囲が戦場となり、水田や畑は踏み荒らされました。華嶋氏など西岡衆の一部は、明智方に味方したと考えられています。



Zairaiaba

在来馬

日本在来の馬(和種馬)は、北海道和種(道産子)・木曾馬など8馬種あります。四季の変化や様々な地形にも適応できる馬であり、戦国時代には農耕、荷物のうこうの運搬などとともに、たいへん重要な武器・移動手段として大切に飼育・活用されました。速く、持久力があり、人としっかりコミュニケーションがとれる馬が良い馬とされました。

修了証

このたび、次世代と地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト(つなプロ)「戦国時代ヘタイムスリップ! 西岡衆をさぐる」に参加し、京都乙訓・西岡の国衆について体験と学習を積んだことは大変結構なことだった。文書・書状、かぶと作り、茶の湯・連歌、城、戦・行軍、乗馬、寄合など、戦国武将として知るべきことは概ね学んだ。これからもますます歴史や文化を探究して、学んだこと感じたことを人々に伝える発信者となり、地域に貢献できる立派な大人になってほしい。

令和六年二月 信長



課題解決型
体験学習

戦国時代へタイムスリップ! ～西岡衆をさぐる～

▶ 活動内容一覧

“武士の通信”編

第1回 ガイダンス/武士の生活を体験しよう!

令和5年8月27日(日) 向日市立第2向陽小学校

乙訓に戦国武将はいたのかな?

- 乙訓の戦国時代について考えよう!
- 証拠をもとに推理しよう!

西岡衆をさぐる「調べることを決めよう!」

- これからの体験学習の進め方の確認と役割決め

西岡衆を追え!～ナゾ①～「武士の生活ってどんなの?」

- 武士の通信手段「書状」を学ぶ
- 武士の手紙を書いてみよう!



“かぶと作り”編

第2回 武士の装備品を知ろう!

令和5年9月10日(日) 向日市立第2向陽小学校

西岡衆を追え!～ナゾ②～「武士の武具ってどんなの?」

- 紙でかぶとを作ってみよう!

第3回

武士の生活を体験しよう! その2

令和5年9月24日(日) 大崎町歴史資料館ほか

西岡衆を追え! ~ナゾ③~

「茶の湯は武士のたしなみ! ?」

- 武士の教養「連歌」を体験してみよう!
- 茶道「千利休について」
- 茶の湯体験

指導: 大崎町茶道サークル 友あそび/
大崎町歴史資料館

“茶の湯と連歌”編



第4回

武士の住まいを見に行こう!

令和5年10月1日(日) 物集女城、石見城、勝龍寺城

西岡衆を追え! ~ナゾ④~

「西岡衆の拠点はどこ?」

“いざ、
国衆の城へ”編



第5回

武士の戦いを学ぼう!

令和5年11月5日(日)

向日市立第2向陽小学校

西岡衆を追え! ~ナゾ⑤~

戦国時代の「いざ」ってどんなの?

- 鉄砲 指導: 丹波亀山鉄砲隊
- 槍、行軍、模擬合戦
- 甲冑の着付け
- ほら貝



第6回 武士の生活を体験しよう! その3

令和5年12月10日(日) 向日市立第2向陽小学校

西岡衆を追え!～ナゾ⑥～「兵器、その名は『馬』!？」

- 演武見学 指導:御簾野乃杜牧場
- 馬に乗ってみよう! ● 行軍してみよう!



第7回 “寄合”編 武士の生活を 体験しよう! その4

令和5年12月17日(日) 向日神社

西岡衆を追え!～ナゾ⑦～
「西岡衆はどのように地域を
治めていたのだろうか?」

- 武士の話し合い
「寄合」を体験してみよう!
- 向日神社本殿見学・散策



第8回 これまでの振り返りと交流

令和5年12月24日(日)
向日市立第2向陽小学校

発表会に向けて準備をしよう!

- 発表原稿と
プレゼンテーション準備

AtoZ 項目の確認

第9回 活動のまとめ

令和6年1月14日(日)
向日市文化資料館

発表会リハーサル



第10回 「西岡衆をさぐる」 学習成果発表会

令和6年2月4日(日)
向日市文化資料館

地域の人たちに
調べたことを発表しよう!

- 体験学習した内容や感想を紹介
- 活動記録動画
- 質問タイム



向日AtoZ

発行日 令和6年2月5日

文 つなプロ向日モデル参加者
(向日市内在住 小中学生)
京都乙訓ふるさと歴史研究会 中西昌史

監修 向日市文化資料館(玉城玲子、里見徳太郎)

協力 大山崎町茶道サークル 友あそび
大山崎町歴史資料館
大山崎町文化協会
丹波亀山鉄砲隊
御猟野乃杜牧場
向日神社
京都乙訓ふるさと歴史研究会
塩見直紀(半農半X研究所)

発行

KYOTO地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会
(事務局:京都市文化生活部文化政策室)

つなプロ

次世代と地域文化をつなぐ
ミュージアムプロジェクト

 文化庁

令和5年度博物館機能強化推進事業
(Innovate MUSEUM事業)